

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道46号 角館バイパス
事業主体	東北地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	■ 便益が費用を上回っている	全 体：費用便益比 (B/C) = 1.4 (経済的純現在価値 (B-C) = 121億円、経済的内部収益率 (EIRR) = 5.6%) 残事業：費用便益比 (B/C) = 1.6 (経済的純現在価値 (B-C) = 57億円、経済的内部収益率 (EIRR) = 8.0%)

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠	
1. 活力 円滑なモビリティの確保	● 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間b (当該区間/並行区間) について： 並行区間等 (当該区間) の渋滞損失時間：14.7 → 4.9万人時間/年 並行区間等 (当該区間) の渋滞損失削減率：約5割削減	
	■ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	対象区間 (仙北市田沢湖小松)、改善見込み (旅行速度10.9km/h⇒30km/h)	
	□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上踏切道の除却もしくは交通改善が期待される		
	■ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	(羽後交通) 稲沢線 (角館～水沢～境：4往復/日)、 生保内線 (角館～田沢湖：6往復/日)	
	□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる		
	■ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	仙北市⇒秋田空港 (第二種空港) 改善見込み (仙北市役所～秋田空港、98分⇒90分)	
物流効率化の支援	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	仙北市⇒秋田港 (重要港湾) 改善見込み (仙北市役所～秋田港、124分⇒116分)	
	□ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上		
	□ 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する		
1. 活力 都市の再生	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である		
	□ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する		
	□ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり		
	□ 中心市街地内で行う事業である		
	□ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である		
	□ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する		
	□ 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発 (300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上) への連絡道路となる		
	国土・地域ネットワークの構築	□ 高速自動車国道と並行する自専道 (A'路線) としての位置づけ有り	
		■ 地域高規格道路の位置づけあり	盛岡秋田道路
		□ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	

		<ul style="list-style-type: none"> ■ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する 	仙北市⇒秋田市 改善見込み（110分⇒102分）
		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 現道等における交通不能区間を解消する <input type="checkbox"/> 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する <input type="checkbox"/> 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる 	
	個性ある地域の形成	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する <input type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する ■ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される <input type="checkbox"/> 特別立法に基づく事業である <input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である <input type="checkbox"/> 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリックな道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である 	<ul style="list-style-type: none"> ・角館の桜まつり（156万人） ・田沢湖県立自然公園（165万人）
2. 暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上の場合において、当該区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる <input type="checkbox"/> 交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される 	
	無電柱化による美しい町並みの実現	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り <input type="checkbox"/> 市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）の幹線道路において新たに無電柱化を達成する 	
	安全で安心できる暮らしの確保	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる 	仙北市（角館消防署田沢湖分署）⇒秋田赤十字病院（三次救急医療施設） 改善見込み（100分⇒92分）
3. 安全	安全な生活環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる <input type="checkbox"/> 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される 	
	災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する ■ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業5ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり ■ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する <input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A'路線としての位置づけがある場合） <input type="checkbox"/> 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される <input type="checkbox"/> 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する <input type="checkbox"/> 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する <input type="checkbox"/> 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する <input type="checkbox"/> 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす 	秋田県緊急輸送道路ネットワーク・1次指定路線 国道46号現道
4. 環境	地球環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量 	CO2排出削減量：2,465t-CO2/年（713万円/年に相当）

	生活環境の改善・保全	<input type="radio"/> 現道等における自動車からのNO2排出削減率	
		<input type="radio"/> 現道等における自動車からのSPM排出削減率	
		<input type="checkbox"/> 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		<input type="checkbox"/> その他、環境や景観上の効果が期待される	
5. その他	他のプロジェクトとの関係	<input checked="" type="checkbox"/> 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	角館都市計画区域マスタープラン（秋田県 H16.4）において、「秋田・岩手両県の交流を活性化するとともに本区域内の交通を適切に処理する主要幹線道路」に位置付け
		<input type="checkbox"/> 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
		<input type="checkbox"/> 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		<input type="checkbox"/> その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
一般国道46号	角館バイパス	L=6.1km	地域高規格	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
8,900	4	東北地方整備局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成23年度		
単純合計	221億円	87億円	308億円
うち残事業分	68億円	87億円	155億円
基準年における 現在価値 (C)	243億円	30億円	272億円
うち残事業分	60億円	30億円	89億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成23年度			
供用年	平成30年度			
単年便益 (初年便益)	18億円	5.9億円	1.5億円	25億円
基準年における 現在価値 (B)	275億円	95億円	23億円	393億円
うち残事業分	105億円	32億円	9.1億円	146億円

③ 結果

費用便益比（事業全体）	1.4
経済的純現在価値（事業全体）	121億円
経済的内部収益率（事業全体）	5.6%
費用便益比（残事業）	1.6
経済的純現在価値（残事業）	57億円
経済的内部収益率（残事業）	8.0%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析（事業全体を対象）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	8,900台/日	±10%	1.3 ~ 1.7
事業費	221億円	±10%	1.4 ~ 1.5
事業期間	21年	±2年	1.3 ~ 1.6

④ 感度分析（残事業を対象）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	8,900台/日	±10%	1.4 ~ 1.9
事業費	68億円	±10%	1.5 ~ 1.7
事業期間	6年	±2年	1.6 ~ 1.7

交通状況の変化

様式-3①

事業名：一般国道46号 角館バイパス（全体）

（推計時点 H42年）

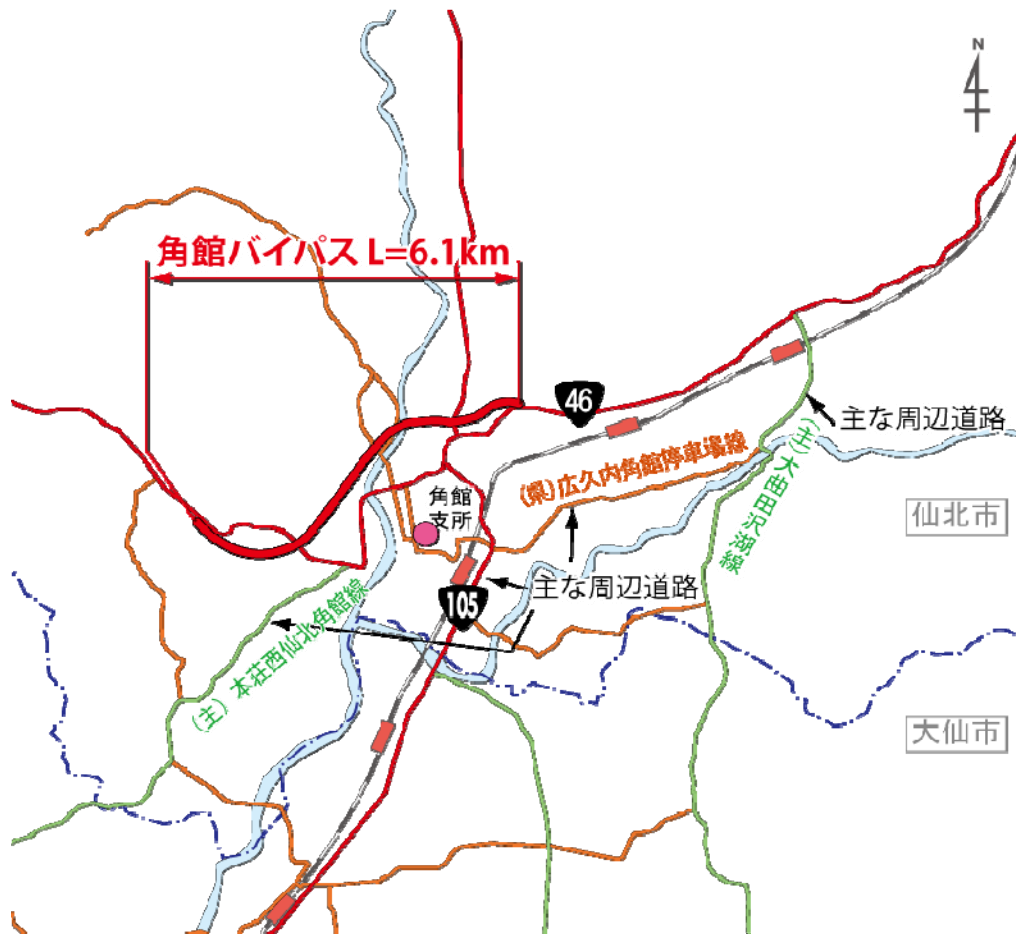
			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 ：6.1km	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	8,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0	5	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	7.49	
②主な周辺道路 ^{※4}	現道 (国道46号) ：7.2km	交通量	[台/日]	8,300	2,300
		走行時間	[分]	12	11
		走行時間費用	[億円/年]	18.71	4.57
	国道105号 ：15.7km	交通量	[台/日]	8,800	8,700
		走行時間	[分]	32	31
		走行時間費用	[億円/年]	50.37	48.83
	(県)広久内角館 停車場線 ：7.1km	交通量	[台/日]	2,900	2,100
		走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	6.43	4.31
	(主)大曲 田沢湖線 ：8.9km	交通量	[台/日]	800	700
		走行時間	[分]	18	18
		走行時間費用	[億円/年]	2.61	2.24
	(主)本荘 西仙北 角館線 ：28.7km	交通量	[台/日]	3,200	2,900
		走行時間	[分]	47	47
		走行時間費用	[億円/年]	28.25	25.47
③その他道路合計 ：3760.6km	走行時間費用	[億円/年]	9,044.97	9,042.20	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：3834.3km	走行時間短縮便益	[億円/年]	9,151.34	9,135.11	16.23

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

事業名：一般国道46号 角館バイパス（全体）

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示



交通状況の変化

事業名：一般国道46号 角館バイパス（残事業）

（推計時点 H 4 2 年）

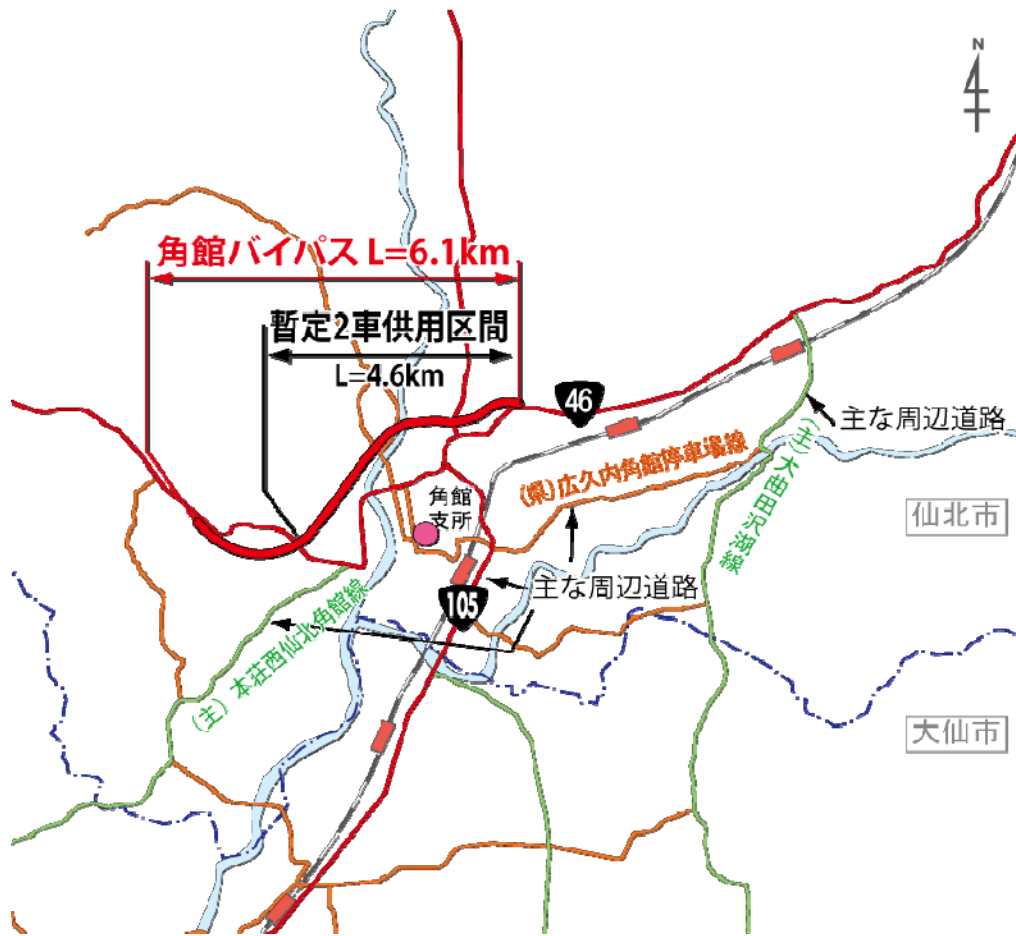
			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 : 6.1km	交通量 ^{※1}	[台/日]	6,200	8,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	5	5	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	5.39	7.49	
②主な周辺道路 ^{※4}	現道 (国道46号) : 7.2km	交通量	[台/日]	4,900	2,300
		走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	10.78	4.57
	国道105号 : 15.7km	交通量	[台/日]	8,700	8,700
		走行時間	[分]	32	31
		走行時間費用	[億円/年]	49.31	48.83
	(県) 広久内角館 停車場線 : 7.1km	交通量	[台/日]	2,300	2,100
		走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	4.79	4.31
	(主) 大曲 田沢湖線 : 8.9km	交通量	[台/日]	700	700
		走行時間	[分]	18	18
		走行時間費用	[億円/年]	2.27	2.24
	(主) 本荘 西仙北 角館線 : 28.7km	交通量	[台/日]	3,000	2,900
		走行時間	[分]	47	47
		走行時間費用	[億円/年]	26.07	25.47
③その他道路合計 : 3760.6km	走行時間費用	[億円/年]	9,042.50	9,042.20	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 3834.3km	走行時間短縮便益	[億円/年]	9,141.11	9,135.11	6.00

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

事業名：一般国道46号 角館バイパス（残事業）

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示



費用便益分析の条件

事業名：一般国道46号 角館バイパス

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成23年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (平成42年)
		複数時点での推計	<input type="checkbox"/>
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>
		整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
		いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ の推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H17センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
		その他()	<input type="checkbox"/>
	開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
		有	<input type="checkbox"/>
有の場合のみ		考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載 ()台トリップ/日	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
その他()		<input type="checkbox"/>	
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量(Qmin~Qmax)の路線、等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度	<input type="checkbox"/>	
採用理由を記載			
その他()		<input type="checkbox"/>	

事業名：一般国道46号 角館バイパス

(3)

項目		チェック欄	
休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する	<input type="checkbox"/>	
	考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
		対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
採用した休日係数		() %	
災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する	<input type="checkbox"/>	
	考慮する場合のみ	採用した通行止め日数	() 日
		とり止め交通を考慮する	<input type="checkbox"/>
冬期交通の影響	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
	考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する場合のみ	採用した冬期日数	(94) 日
		採用した冬期日数の考え方を記載	
		当該区間を管轄する角館国道維持出張所の除雪機械稼働日数より設定(H17~21平均)	
冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載			
走行速度調査より道路種別に応じて冬期旅行速度低下率を算出し配分速度を補正			
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他 ()	<input type="checkbox"/>	
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>	
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>	
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>	
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>	
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>	
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input type="checkbox"/>	
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する	<input type="checkbox"/>	
その他			

便益の算定

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 一般国道46号 角館バイパス(全体)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.3	6.1	1.83

年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-21年目	H 9	1.7317	103.3000	0.19	0.29		
-20年目	H 10	1.6651	102.8000	0.38	0.55		
-19年目	H 11	1.6010	101.3000	3.38	4.81		
-18年目	H 12	1.5395	99.7000	16.73	23.25		
-17年目	H 13	1.4802	98.4000	9.31	12.60		
-16年目	H 14	1.4233	96.6000	16.09	21.34		
-15年目	H 15	1.3686	95.4000	11.37	14.68		
-14年目	H 16	1.3159	94.4000	10.91	13.69		
-13年目	H 17	1.2653	93.2000	12.20	14.91		
-12年目	H 18	1.2167	92.5000	8.05	9.53		
-11年目	H 19	1.1699	91.7000	15.88	18.23		
-10年目	H 20	1.1249	91.2000	20.50	22.76		
-9年目	H 21	1.0816	90.0000	15.22	16.46		
-8年目	H 22	1.0400	90.0000	8.35	8.68		
-7年目	H 23	1.0000	90.0000	3.81	3.81		
-6年目	H 24	0.9615	90.0000	11.15	10.72		
-5年目	H 25	0.9246	90.0000	12.95	11.97		
-4年目	H 26	0.8890	90.0000	11.05	9.82		
-3年目	H 27	0.8548	90.0000	11.05	9.45		
-2年目	H 28	0.8219	90.0000	11.05	9.08		
-1年目	H 29	0.7903	90.0000	11.05	8.73		
供用年次	H 30	0.7599	90.0000			1.74	1.32
1年目	H 31	0.7307	90.0000			1.74	1.27
2年目	H 32	0.7026	90.0000			1.74	1.22
3年目	H 33	0.6756	90.0000			1.74	1.18
4年目	H 34	0.6496	90.0000			1.74	1.13
5年目	H 35	0.6246	90.0000			1.74	1.09
6年目	H 36	0.6006	90.0000			1.74	1.05
7年目	H 37	0.5775	90.0000			1.74	1.00
8年目	H 38	0.5553	90.0000			1.74	0.97
9年目	H 39	0.5339	90.0000			1.74	0.93
10年目	H 40	0.5134	90.0000			1.74	0.89
11年目	H 41	0.4936	90.0000			1.74	0.86
12年目	H 42	0.4746	90.0000			1.74	0.83
13年目	H 43	0.4564	90.0000			1.74	0.79
14年目	H 44	0.4388	90.0000			1.74	0.76
15年目	H 45	0.4220	90.0000			1.74	0.73
16年目	H 46	0.4057	90.0000			1.74	0.71
17年目	H 47	0.3901	90.0000			1.74	0.68
18年目	H 48	0.3751	90.0000			1.74	0.65
19年目	H 49	0.3607	90.0000			1.74	0.63
20年目	H 50	0.3468	90.0000			1.74	0.60
21年目	H 51	0.3335	90.0000			1.74	0.58
22年目	H 52	0.3207	90.0000			1.74	0.56
23年目	H 53	0.3083	90.0000			1.74	0.54
24年目	H 54	0.2965	90.0000			1.74	0.52
25年目	H 55	0.2851	90.0000			1.74	0.50
26年目	H 56	0.2741	90.0000			1.74	0.48
27年目	H 57	0.2636	90.0000			1.74	0.46
28年目	H 58	0.2534	90.0000			1.74	0.44
29年目	H 59	0.2437	90.0000			1.74	0.42
30年目	H 60	0.2343	90.0000			1.74	0.41
31年目	H 61	0.2253	90.0000			1.74	0.39
32年目	H 62	0.2166	90.0000			1.74	0.38
33年目	H 63	0.2083	90.0000			1.74	0.36
34年目	H 64	0.2003	90.0000			1.74	0.35
35年目	H 65	0.1926	90.0000			1.74	0.34
36年目	H 66	0.1852	90.0000			1.74	0.32
37年目	H 67	0.1780	90.0000			1.74	0.31
38年目	H 68	0.1712	90.0000			1.74	0.30
39年目	H 69	0.1646	90.0000			1.74	0.29
40年目	H 70	0.1583	90.0000			1.74	0.28
41年目	H 71	0.1522	90.0000			1.74	0.26
42年目	H 72	0.1463	90.0000			1.74	0.25
43年目	H 73	0.1407	90.0000			1.74	0.24
44年目	H 74	0.1353	90.0000			1.74	0.24
45年目	H 75	0.1301	90.0000			1.74	0.23
46年目	H 76	0.1251	90.0000			1.74	0.22
47年目	H 77	0.1203	90.0000			1.74	0.21
48年目	H 78	0.1157	90.0000			1.74	0.20
49年目	H 79	0.1112	90.0000	-25.54	-2.84	1.74	0.19
合計				195.13	242.52	87.00	29.56

単純事業費計	220.67	87.00
--------	--------	-------

注1) 事業費の投資パターンは、概算事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 一般国道46号 角館バイパス(残事業)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.3	6.1	1.83

年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-6年目	H 24	0.9615	90.0000	11.15	10.72		
-5年目	H 25	0.9246	90.0000	12.95	11.97		
-4年目	H 26	0.8890	90.0000	11.05	9.82		
-3年目	H 27	0.8548	90.0000	11.05	9.45		
-2年目	H 28	0.8219	90.0000	11.05	9.08		
-1年目	H 29	0.7903	90.0000	11.05	8.73		
供用年次	H 30	0.7599	90.0000			1.74	1.32
1年目	H 31	0.7307	90.0000			1.74	1.27
2年目	H 32	0.7026	90.0000			1.74	1.22
3年目	H 33	0.6756	90.0000			1.74	1.18
4年目	H 34	0.6496	90.0000			1.74	1.13
5年目	H 35	0.6246	90.0000			1.74	1.09
6年目	H 36	0.6006	90.0000			1.74	1.05
7年目	H 37	0.5775	90.0000			1.74	1.00
8年目	H 38	0.5553	90.0000			1.74	0.97
9年目	H 39	0.5339	90.0000			1.74	0.93
10年目	H 40	0.5134	90.0000			1.74	0.89
11年目	H 41	0.4936	90.0000			1.74	0.86
12年目	H 42	0.4746	90.0000			1.74	0.83
13年目	H 43	0.4564	90.0000			1.74	0.79
14年目	H 44	0.4388	90.0000			1.74	0.76
15年目	H 45	0.4220	90.0000			1.74	0.73
16年目	H 46	0.4057	90.0000			1.74	0.71
17年目	H 47	0.3901	90.0000			1.74	0.68
18年目	H 48	0.3751	90.0000			1.74	0.65
19年目	H 49	0.3607	90.0000			1.74	0.63
20年目	H 50	0.3468	90.0000			1.74	0.60
21年目	H 51	0.3335	90.0000			1.74	0.58
22年目	H 52	0.3207	90.0000			1.74	0.56
23年目	H 53	0.3083	90.0000			1.74	0.54
24年目	H 54	0.2965	90.0000			1.74	0.52
25年目	H 55	0.2851	90.0000			1.74	0.50
26年目	H 56	0.2741	90.0000			1.74	0.48
27年目	H 57	0.2636	90.0000			1.74	0.46
28年目	H 58	0.2534	90.0000			1.74	0.44
29年目	H 59	0.2437	90.0000			1.74	0.42
30年目	H 60	0.2343	90.0000			1.74	0.41
31年目	H 61	0.2253	90.0000			1.74	0.39
32年目	H 62	0.2166	90.0000			1.74	0.38
33年目	H 63	0.2083	90.0000			1.74	0.36
34年目	H 64	0.2003	90.0000			1.74	0.35
35年目	H 65	0.1926	90.0000			1.74	0.34
36年目	H 66	0.1852	90.0000			1.74	0.32
37年目	H 67	0.1780	90.0000			1.74	0.31
38年目	H 68	0.1712	90.0000			1.74	0.30
39年目	H 69	0.1646	90.0000			1.74	0.29
40年目	H 70	0.1583	90.0000			1.74	0.28
41年目	H 71	0.1522	90.0000			1.74	0.26
42年目	H 72	0.1463	90.0000			1.74	0.25
43年目	H 73	0.1407	90.0000			1.74	0.24
44年目	H 74	0.1353	90.0000			1.74	0.24
45年目	H 75	0.1301	90.0000			1.74	0.23
46年目	H 76	0.1251	90.0000			1.74	0.22
47年目	H 77	0.1203	90.0000			1.74	0.21
48年目	H 78	0.1157	90.0000			1.74	0.20
49年目	H 79	0.1112	90.0000	-0.05	-0.01	1.74	0.19
合計				68.25	59.76	87.00	29.56

単純事業費計	68.30	87.00
--------	-------	-------

注1) 事業費の投資パターンは、概算事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

